

映像から

音が生まれるとき

松本佳奈 (音楽)

「歌なしで、ピアノのみで、お願いします。」

小谷監督からイメージをいただいたとき、内心どきどきしました。

なんせ私は普段、自分で書いた曲をピアノで弾き語ると

た曲をピアノで弾き語るという芸風なものですから、自分の声、歌ありきなのです。

ピアノだけの曲が私に書けるのかな？が、正直なところ第一印象でした。

もともとは小説家になりたくて武蔵野大学の文学部に入学しました。住み始めた大学寮にたまたまピアノがあったので、浮かんじ言葉にメロディをつけて弾き語りを始めました。

それが音楽の道に進むきっかけです。三鷹と吉祥寺のちょうど真ん中、五日市街道沿いにその寮がありました。

パスタハウスフジヤでズッキーニの美味しさを知って、しばらくはフライパンで焼いただけの薄切りズッキーニばかり食べていました。

毎日のように吉祥寺へ出掛けました。田んぼと薬局とスーパーしかない田舎から来た私の目には、何もかもが新鮮

でした。東急裏の今は無きヴィレッジヴァンガードで本やCDを漁り、イルカカフェで黙々と歌詞を書く。人生初のレイトショーを観たバウスシアターの帰り道、門限ギリギリで飛ばした自転車。友達の一部で他愛のない夜更かし。

人生で初めて、自分で息を吸ったような気分がしました。大人の入り口というのは、親や先生から与えられたものをひとつひとつ、自分自身の手で選び直していくことなのかなと思います。「あなたにはこれが向いているわ」果たして本当に向いているのか。「この色が似合うわ」果たして本当に似合うのか、そもそも自分はその色が好きなのか。環境が変われば、自分も変わる。変化した自分に合うように選び直していく。その繰り返しなんじゃないかなと。

「ウエスト・トウキョウ・ストーリー」のお話をいただいた2014年の冬、ちょうど私は変化の真っ只中にいました。持病の関節炎で歩けなくなり、人生初の入院をし、声も出づらくなり、「声で表現すること」ありきの音楽活動にぶつりと風穴が空いた時でした。けれど小谷監督の映像を見つけた時、すでに頭の中でピアノの音が鳴り始めていて、最初に感じた「できるかな？」という不安はすぐに消えました。映像から音楽を生んでいくことの面白さを知りました。

ただただ目の前のことに夢中になっていると、いつの間にか新しい自分に変化していて、古い自分は遥か遠く、前世かと思うほど遠くに見えます。今でもズッキーニを見ると三鷹の小さなパスタ屋を思い出しますが、あの頃には戻れませんが、切なくなる時もありますが、大切な宝物を胸の奥にしまっているような温かさもあります。

「ウエスト・トウキョウ・ストーリー」は私にとって、新しい自分への入り口でした。歩けること、ごはんが美味しく食べられること、二度と戻らない時間、今生きていることの幸せ。ストーリーと自分とが何度もリンクして、涙がこぼれました。このお話をただで本当に有難く思います。武蔵野大学にゆかりのある方も、ない方も、ぜひご覧になって下さい。限りある命を生きる同士としてきつと胸に響くものがあるはずですよ。

松本佳奈 ●シンガー・ソングライター。1985年4月24日生まれ。海とあざりとブルーベリーの町、千葉県木更津市出身。見た目からは想像のつかない力強く透きとおった歌声で存在感を放ち、関東を中心に活動を広げる。2014年、4thミニアルバム『死んだように生きるのほもうやめた』をベルウッドレコードより全国発売。渋谷 duo MUSIC EXCHANGEにてリリースワンマンライブを開催し、300名超えの超満員御礼となる。2016年4月30日、5thミニアルバム『魔法の手のひら』が発売決定。http://matsumotokana.info